



関わる教職員から話を聞いたりと、角度や視点を変えて見ることを大切にしながら人と関わつて、こう思つた。

二点目は「掃除は人の心を育てる効果があること」である。掃除の後に行つた討論の際、日本には「きれいなイメージ」があり、外国人労

働者の方はそれを知り、率先して行動に移してることを知った。しかし、農業を経営する方から肝心の日本人がそれをできていない、率先していないう話を聞いた。その方は、新人研修でトイレ掃除を取り入れ始めたとおっしゃっていた。新人社員研修で掃除を取り入れる会社は少くない。それは掃除に対する姿勢が大事

社はなかなか、それに掃除に対する姿勢はいかないかと思う。トイレはほとんどの人が使う場所、そして汚れやすい場所である。しかし、自ら綺麗にしようと思わない場所でもある。掃除をすることによって、給料が上がるわけでない、認められるわけでもない。しかし、利益だけではなく、トイレを使う他の誰かのために一生懸命になれる人は、仕事に対しても誠実に向き合える人なのではないか。また、今回掃除を行う中で自分の工夫がすぐに成果として現れることに気づいた。便器を真っ白にするという目標を達成するために考え、工夫し、実践し、成果ができるというサイクルが短期間に行われるために、自立性も養われるのではないかと感じた。作業中に山中さんは「やるまでが長いが、やってしまえばあつという間だ」とおっしゃっていた。努力の成果がこんなにも早くできる掃除は、自己肯定感が低いといわれる日本の子どもたちにとって良い活動になるのではないか。トイレ掃除からくるやりがいや達成感は自己肯定感や自己有用感

なかなかありませんが、今回はただ、ただ「掃除をひたすら行う」という一つのことに対して、夢中になつて取り組んでいた自分の姿がありました。

夢中になつて取り組んでいた自分の姿がありました。もともと掃除をすることは嫌いではなく、むしろ好きな方です。掃除をした後のすつきりした気分が好きなのか、掃除をしている自分が好きなのかはわからないですが、掃除は行つていい自分もきれいになつたトイレを使う人の気分を良くしてくれます。また、使う人の立場に立ち、思いを込めて行えば、いろんなことにも気づけます。これまでの私にとって掃除は汚れを落とすことが一番の目的でしたが、今回の経験から、ただ汚れを落とすだけでは、本当の意味での「きれい」を実現できないことにも気づきました。掃除は汚れを落とすことももちろん大切ですが、気持ち良く使つてもらいたい、その場所をきれいにしたい、道具に対しても感謝するといったように、掃除は人とモノへの思いやりをもつて行うこと、そんな心配りが大切だと分かりました。

の方から「自分の心を磨くように、便器も磨きましょう！」というお言葉がありました。掃除は心を無にして純粹な気持ちで取り組むことができると思います。その掃除を行つたことで、自分の心が磨かれたのか、きれいになつたのかは実際にはわかりませんが、自分の体感としては、行う前と比べるとやはりスッキリと晴れやかな気持ちになつたように感じました。さらに掃除をしている最中、そして掃除をし終わつた際に私の頭の中に浮かんだのは、このトイレを使う生徒たちのことでした。「きれいになつた

## 『トイレ掃除は感性を養う』

東海 學園 大學  
伊藤 向日葵

今回、所属する大学のゼミ教員のお誘いを受け、第22回便教会に初めて参加させて頂きました。便教会の存在は大学生になって初めて知りましたが、このような会に積極的に参加する人がいること自体が正直、驚きでした。大学2年生の時にも開催されることは知っていましたが、新型コロナウイルス感染症の流行もあり、家族からなかなか理解が得られず、参加することができませんでした。しかし、「今回は是非参加してみたい!」という自分自身の強い気持ちと「縁がつながり、参加できたことを大変嬉しく思っています。

初参加だったため、参加する前は「どんなトイレを、どんな人たちと掃除するのだろう」と

トイレを見た生徒たちはどんな反応をするだろう、「私たちが掃除をしたトイレを使用する生徒たちが、少しでも気持ちよくトイレを使用するのと同時に、これから少しでもきれいにトイレを使おうと思つてくれたら嬉しいな」という想いでした。

掃除後の報告会では、参加者のみなさんと感想や意見を交換することで、さらに、様々な人の考え方や感じ方を知ることで学びや気づきが深まり、自分自身を見つめ直す機会となりました。参加者の方からはいろいろなお話を聴かせて頂きましたが、その中で最も印象に残つている言葉があります。それはある先生がおっしゃった「トイレの便器は子どもと一緒にある」という言葉です。これだけ聞くと困惑しますが、先生のお話はとても納得できるところがあります。

便器は和だちが出した排泄物やトイレットペーパーをきれいに洗い流してくれます。しかし、使い方が良くなかったり、トイレットペーパーを流しすぎたりすると詰まってしまいます。それを、子どもに重ね合わせると、子どもたちは

事例、どうの凶悪犯もそうなるのか、その見

問答

相談役　鍵山秀三郎

極めを知りたし  
答 古い話ドリゲニイマスナガニ、吉田公雲が

たくさんの少年を教育しましたね。 いずれもその人たちが明治維新で大活躍しました

けど、あの教育の天才と言われた吉田松陰が三人教育できなかつた少年がいるんですね。その三人の共通点は何か。「無感動」であつた。感動しない少年は吉田松陰とい

つたんスイツチが入ると、身を低くして、便器に正面から向き合い、いつの間にか夢中になつて取り組んでいました。普段の生活では一つのことに時間を忘れるぐらい夢中になれるることは

悪い、詰まってからでも対処すれば、また元通りに使用することができるかもしれません。しかし、子どもは違うと思います。子どもの場合、元通りになるには多くの時間が必要となり、完全には元の状態に戻ることが難しくなります。そのため、子どもたちが受け止めきれなくなる前に早期発見・早期対応を行うことが重要だと思思います。便器と子どもは、モノと人で全く別のものでありながらも、こんなつながりがあつたのかと思うような、印象的で新しい気づきをもららしてくれださった先生のお話でした。

今回の便教会への参加は、私にとつて自分自身を見つめ直し、自身の内面を磨けたと同時に、深い学びや多くの気づきがあつた実のある経験でした。参加することができて良かつたです。

ご縁がありましたら、また参加します。

想像を膨らませていました。トイレは私たちの健康を保ち、感染症の拡大を予防し、尊厳をもつた暮らしをする上でとても重要な役割を果たしています。しかし、それを理解していくも、トイレはきれいな場所というよりも、汚い場所という先入観の方がどうしても強いので、最初は少し抵抗がありました。さらに、今回掃除をさせて頂いた学校のトイレは、5Kと言われるような、汚く、臭く、暗いトイレであり、まさに生徒たちが使用することに強い抵抗感を覚えるようなトイレだと感じました（後で思い起こせば、掃除をさせて頂く上では、とてもやりがいのあるトイレだったと思ひます。）

トイレ掃除は「自分を知る最捷径」である。

吉田松陰が久坂玄瑞に宛てた手紙に『遠くまで達するかは行為の厚い薄いを示し、広く伝わるかは志の深い浅いを示す。心を天地の間に立て、一命を人民の間に立て、古の偉人のあとを継ぎ、万世に開くのです。』と書かれています。世代交代する中で掃除に学ぶ会の活動、実践、その心がどのように伝わっていくのか心配せざるを得ません。便教会活動も例に漏れず、教師の参加者が少なくなっています。私自身が教育現場を離れたこともあり、教師を含めた若者、大学生に「掃除の魅力・素晴らしさ」を伝えていくことに重点を置くことに変わりました。世の中が変わつていくには時間がかかりますが、続けなければ、やらなければ心の荒みがまん延し、社会の活力が失われ後退するばかりです。「一人の百歩より百人の一步」という言葉を皆さんご存じで、便教会新聞を読まれている方は皆さん、善友力を發揮されていますが、今ひとつ活動に何かプラスアルファしていただき、新しい風を吹かせていただきましょう。吉田松陰先生は「志を立てて、もって万事の源となす」「何事もならぬといふはなきものをならぬといふはなきぬなりけり」と遺しています。「コロナ禍で活動をストップする」のではなく、やり方を変えるチャンスと捉え、進んでいきたいです。私たちは皆、「死ぬまで生きています」。

高野修滋 拝